

A—39 欠食による調査(第2報)
—低比重者と食事との関係—

九州女大家政 行実 直美
○滝沢 和子
河村 芳江

1. 昭和43年家政学会に於て、第1報により欠食による調査を発表しました。その結果欠食が食事に影響を及ぼすという結果をみいだしたので第2報では第1報と関係の深い低比重と食事との関係について、調査を行いました。

2. 北九州の血液センターもしくはセンター出張所、街頭などに献血に来た人の中で血液が1.052以下の人(男性5名女性50名)に対して調査を行った。調査項目は年令、職業、性別、睡眠時間、1日の食事回数、体重、胃の調子、1日の食事内容については、貧血前数日にわたり喫食した物をききとりの方法で行いました。調査月日は昭和44年7月～8月にかけて調査しました。

3. 本調査では低比重者の原因を断定することはできないが低比重者のいくつかの傾向として次のようなことが考えられる。

- ①男性より女性の方が低比重者の比率が多い。
- ②低比重者の中で職業別に区分した場合女性では主婦が多い。
- ③低比重者の栄養摂取状況の傾向として蛋白質、脂肪、カルシウム、ビタミンA、ビタミンCの摂取が少い。
- ④1日1回喫食しない人が女性の場合30%で時々しない人16%であるが、その中で主婦は昼が多く、学生、会社員、美容師、店員などの若い層では朝喫食しない人が多い。
- ⑤低比重者の年令は女性のみには一定の傾向はないが女性と男性では、分布の仕方が異なる。

以上、詳細については発表時に報告いたします。